

【勝央町】

校務DX 計画

勝央町では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度からICT環境の整備を進めてきました。しかしながら、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められています。

これらの課題を解決するため、本町では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション(DX)を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた次の具体的な取り組みを進めることとします。

① 汎用クラウドツールの積極的な活用(随時実施)

授業用端末、校務用端末及びクラウド型グループウェアを活用し、校内の会議のペーパーレス化や学校間をまたぐ会議のオンライン開催を積極的に行う。また、押印の見直しにより紙媒体でのやり取りを極力排すとともに、FAXから電子メールやクラウドストレージ利用へ積極的に移行し、クラウド環境を利用したやり取りを推進する。

② 校務DX推進体制の構築

- ・教職員のICT活用能力向上と積極的な授業への活用を促進するために「ICT支援員」を配置する。
- ・外部講師や専門家による研修を実施し、教職員のスキル向上を支援する。

③ 保護者との情報共有の強化

- ・クラウドサービスを用いた一斉配信で、お便りや配布物をペーパーレス化し、保護者の負担軽減と情報共有の効率化を図る。
- ・各種連絡、アンケート、調査、日程調整などをクラウドサービスで実施する。

④ 次世代校務支援システムの導入及び校務系・学習系ネットワークの統合

(令和8年度より検討開始)

現在の校務支援システムはオンプレミス型環境での契約となっており、令和8年度中に更新となる予定である。その更新の際クラウド化へ進める。それに合わせて、校務系と学習系のネットワークの統合も検討し、校務の効率化を進めていく。

⑤ 名簿情報等の不必要な手入力作業の一掃

校務支援システム等の名簿情報の入力については、教育委員会で一括登録を行うことにより、合理的に取り組むこととする。

⑥ データ連携基盤の創出（令和7年度より検討開始）

現在利用している校務支援システムのダッシュボード機能を精査し、各校に向け利用促進のための研修を行う。また、各校からの改善案も随時吸い上げ、保守会社と協議の上、システム改修を行う。

⑦ セキュリティの確保（令和6年度より順次実施）

ネットワークの統合を安全に行うために、次の技術要素を導入する。

（ア）多要素認証：記憶と生体（顔）による二要素認証によりなりすましを防止する。

（イ）パスワード管理シングルサインオンを基軸としたパスワード管理の厳格化を行う。

（ウ）Webフィルタリング：学習系・校務系ともにクラウド型のWebフィルタリングサービスの活用により、Webページからの脅威を防止する。

（エ）児童生徒、教職員、保護者への情報モラル教育を実施し、情報セキュリティ意識を高める。